

# 田井地域実質化された京力農場プラン

市町村名	地域名 (該当集落名)		当初作成年月	更新年月
宮津市	栗田	田井	令和6年3月	

## 1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	8.80 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	5.03 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	0.38 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.38 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

## 2 対象地区の課題

<p>課題</p> <p>当地区は、栗田半島の最北端に位置する漁村集落で、水稻栽培を中心とした土地利用型の農業が行われ、ほ場整備済みの区画約9haを中心に50a前後の規模で営農を行っているが、農家中核的担い手の平均年齢は73歳で、アンケートでは後継者が確実に承継すると回答した者はごくわずかとなっている。</p> <p>隣接する集落と生産組合を設立し、約2haを耕作してきたが、田井地区での活動は令和5年度で終了となり、個人での対応を余儀なくされている。</p> <p>また、山間部から出没するシカ等により深刻な鳥獣被害が出ており、一部は連続した防護柵等により集団で効率的な対策を講じているが、農業者の高齢化や減少により維持管理や経費面で苦慮している。</p> <p>今後さらに高齢化と農家の減少が進む中で、農地の維持だけでなく農道・水路等の施設の管理面においても、農業者だけの対応は困難で、漁業関係者等の非農家の参画を促すなど集落ぐるみの対応が必要とされている。</p>
--

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

集落の話合いに基づき中核的担い手を中心とした農地の集積・集約化を進める。